

### 3 月度学術講演会 睡眠薬に関する特別講演

日 時	3 月 9 日 (土) 午後 2 時
演 題	不眠症患者におけるスボレキサントの役割
講 師	まきメンタルクリニック 院長 西崎真紀 先生
出席者数	25 名
共 催	MSD 株式会社
情報提供	ベルソムラ錠について
担 当	岡藤龍正

## 不眠症患者におけるスボレキサントの役割

我が国では不眠を訴える患者に対し、ベンゾジアゼピン（以下 BZ）系安定剤や睡眠薬が処方されていることが多いが、依存や耐性、離脱症状が問題となっている。特にエチゾラムは BZ 系安定剤の中でも筋弛緩作用が強く、高齢者の転倒のリスクが高い。またいわゆる Z ドラッグ（ゾピクロンやエスゾピクロン、ゾルピテム）も化学構造は極めて BZ 系薬剤に近く、中途覚醒時の記憶の欠落や反跳性不眠の問題が指摘されている。しかし実際にはこれらの薬剤が漫然と投与され、依存している患者も多く、昨年 3 月には厚生労働省から BZ 系薬剤の漫然投与に対する注意喚起が出され、本年 4 月からは睡眠薬と安定剤併せて 3 剤までという診療報酬改定が実施された。さらに来年 4 月からは BZ 系薬剤の漫然投与が減算対象となっている。

こうした現状の中、BZ 系薬剤とは全く作用機序の異なるラメルテオンやスボレキサントが登場したことは大きな意味があるが、まだまだ BZ 系薬剤の処方が圧倒的に多い。諸外国では既に BZ 系薬剤は「最大でも 4 週間まで」などの処方制限がある中で、我が国ではなぜ BZ 系薬剤に頼ってしまうのかを医師側、患者側双方の視点から分析し、BZ 系の離脱症状も含めて検討した。

さて、当院の使用実績ではスボレキサントを投与した患者の 35%以上が半年以内に眠剤を中止できており、BZ 系薬剤からベルソムラへの切替た場合は、ほぼ全員が BZ 系薬剤を中止できている。切替においてはそれまで処方されていた BZ 系薬剤の半量にスボレキサントを追加し、経過を見ることでスムーズな切替が可能であるが、そこには十分な薬剤の説明や睡眠指導も必要である。

不眠を訴える患者であっても症状は一時的なものである可能性も高く、適切な睡眠指導を行うことで睡眠薬を最小限にとどめることが可能ではないだろうか。また患者の中には睡眠に対して過度な要求をしている場合もあるので、十分な問診を行い、不眠のタイプを見極めることも必要である。

スボレキサントはどのようなタイプの不眠にも効果的であり、中止した際の反跳性不眠も認めないため、眠れるようになればスムーズに中止しやすい薬剤であることも大きなメリットであると考えられる。